【資料１】

第３次富山市総合計画審議会
第２回調整部会
議事

Ⅰ. 検討内容・スケジュール・・・p1

Ⅱ. 本日の議事のポイント・・・p2

Ⅲ. 審議会及び各部会での主なご意見・・・p3

Ⅳ. 第3次富山市総合計画　答申(案)・・・別紙

Ⅰ．検討内容・スケジュール

回	第　３　回	第　４　回	調　整　部　会
時期	令和８年８月	令和８年９月	令和８年10月
議事	第３次総合計画 前期基本計画（素案） 「分野別の政策」 について 各担当分野における政策・施策に対して検討	「分野別の政策」 の修正案について 第３回部会でのご意見により修正した「分野別の政策」について検討	答申（案）について これまでの議論を踏まえて作成した「答申（案）」について調整

Ⅱ. 本日の議事のポイント

1. 審議会全体会及び各部会での主な意見について（報告）　資料p4～

以下について事務局からご報告いたします。

- 第3回総合計画審議会（8月5日）での主なご意見とその対応
- 第3回部会（8月）及び第4回部会（9月）において重要視された意見など、調整部会で共有すべき意見

2. 答申（案）の調整について（協議・検討）

これまでの委員からの意見などを盛り込んだ答申（案）をご説明いたします。
各委員におかれましては、
事務局からの説明後、意見交換の時間を設けますので、
ご自身の部会の担当分野に関するもの（個別的事項）、また分野を横断したテーマに関するもの（総括的事項）などについて、
ご意見をお願いします。

Ⅲ. 審議会及び各部会での主なご意見

【第3回総合計画審議会】

No.	ページ	該当箇所	意見	対応／市の考え	担当部局
1	32	スマートシティ政策によるコンパクトシティ政策の深化	「コンパクトなまちづくりを～スマートシティで」の部分に、「政策」を入れると分かりやすくなると思う。	「コンパクトなまちづくりを富山市版スマートシティ政策で」に修正しました。	事務局
2	35	施策の体系～重点推進項目まで	本資料は第Ⅰ部と第Ⅱ部のつながりがやや弱く、わかりにくいと感じる。基本構想を受けて具体的な政策・施策の体系に落とし込まれ、そこから、具体的な取組として記載されることが第1部からの流れとして必要である。プロジェクトや重点推進事項のプロジェクトがあること自体はよいが、今回の資料ではその部分が必要であると感じた。	基本計画全体の構成を、第Ⅰ部「前期基本計画の体系」→第Ⅱ部「分野別の政策」→第Ⅲ部「分野横断重点テーマ」に修正しました。	事務局
3	37	施策を推進する基本的な視点	「基本的な視点」にコンパクトシティ、スマートシティ、SDGsがある中で、コンパクトシティからスマートシティへというつながりの部分について、落とし込みが弱い印象を受けた。スマートシティについては、市長の公約である「幸せ日本一のまち・富山」、「コンパクトシティからスマートシティへ」という考え方を掲げているため、そこをしっかりと落とし込んでいただきたい。	「施策を推進する基本的な視点」の記載内容を修正しました。	事務局
4	126	人口減少・少子化対策	計画内に「人口減少・少子化対策プロジェクト」という形で打ち出すことについて違和感がある。それぞれの人生観や価値観がある中で、このような形で打ち出してよいのか。このような形で示すと、「結婚しないのが悪いのか、子どもを産まないのが悪いのか」と見えてしまうのではないか。	「人口減少・少子化対策」を「分野横断重点テーマ」の一つに整理し、記載内容を見直しました。	事務局

【第3回総合計画審議会】

No.	ページ	該当箇所	意見	対応／市の考え	担当部局
5	126	人口減少・少子化対策	女性としては、出生率や出産率という表現が自分に向けられているように感じると身構えてしまう。産みたくても産めない方や、様々な事情がある方、結婚したくてもできない方もいる。したがって、もう少し表現に柔らかさ、あるいはオブラートに包んだ言い方がある方が、受け入れやすいのではないか。	「人口減少・少子化対策」を「分野横断重点テーマ」の一つに整理し、記載内容を見直しました。	事務局
6	126	人口減少・少子化対策	人口減少対策については、人口が例えば30万人になっても、今と同じように、あるいは今より幸せに暮らせるまちを作るという発想を計画に書き込むことが重要である。	「人口減少・少子化対策」に、「人口減少社会に適応するための施策についても取り組みます」を記載しました。	事務局
7	126	人口減少・少子化対策	分野をまたがる部分の中で「プロジェクト」という名前をつけているものが2つあり、その後ろに「重点推進事項」という言葉が出てくるが、それぞれの関係が言葉として非常にわかりにくくなっていないかと感じた。	「人口減少・少子化対策」を「分野横断重点テーマ」の一つに整理しました。	事務局
8	126	人口減少・少子化対策	UIJターンに関して、若者の定着に向けて県外企業に勤めながら富山に居住し、リモート勤務を行うという選択肢も効果が大きいと考える。	リモート勤務に関しては、産業・雇用分野の「分野別の政策」にテレワークについて記載しております。	事務局
9	127	テーマ2　DX・デジタル技術による暮らしと産業の変革	キーワードとして「官民連携」をぜひ盛り込んでいただきたい。	「テーマの背景と方向性」に「官民連携による産業の生産性向上」を追加しました。	事務局
10	127	テーマ3　安全・安心を支える防災力の強化	関連する主な分野について、「主な」という形で網羅的に記載されていると思うが、その他にも関係する事項があると考える。「産業・雇用」を追加されてはどうか。企業の果たす役割についても検討いただきたい。	「関連する主な分野」に「産業・雇用」を追加しました。	事務局

【第3回総合計画審議会】

No.	ページ	該当箇所	意見	対応／市の考え	担当部局
11	127	テーマ3　安全・安心を支える防災力の強化	キーワードとして「都市レジリエンス」をぜひ盛り込んでいただきたい。	「テーマの背景と方向性」に「災害に強い『都市レジリエンス』の向上を図ります。」を追加しました。	事務局
12	128	テーマ4　脱炭素・GXと豊かな自然環境の保全	表題を「脱炭素化・GXの推進と豊かな自然環境の保全」としてはどうか。	「脱炭素化・GXの推進と豊かな自然環境の保全」に修正しました。	事務局
13	128	テーマ5　公共施設・インフラの持続可能なマネジメント	「合意形成」という文言を入れていただきたい。	「テーマの背景と方向性」の本文に「適切な情報提供と合意形成」を追加しました。	事務局
14	129	テーマ6　多様な人材が活躍できる共生社会の実現	テーマのうち共生社会について、主な分野に「防災・防犯」を入れてはどうか。近年、グローバル化が進む中で外国籍の方が増えており、日本語ができない方も増えている。災害時等に避難場所や対応方法がわからない状況で暮らしていると、不安を感じることもあると考えられるため、そうした観点を取り入れて安心して暮らせるようにしていただきたい。	「関連する主な分野」に「防災・防犯」を追加しました。	事務局

【人材・暮らし部会】

No.	分野	ご意見
1	総括的事項	人口減少対策をプロジェクトとして掲げることから、分野の順番も１番に「結婚・出産・子育て」としたのではないかと思う。しかし、人口減少対策をあまり前面に出さない構成に変えたのであれば、「結婚・出産・子育て」という政策の順番や、分野別の順番が本当にこれでよいのか、もう一度検討した方がよいのではないか。
2	結婚･出産･子育て	結婚することを強制するわけではなく、政策で強制できるものでもない。一方で、結婚したいと希望している若い人が多いという現実に対して、その希望を叶えていくことが大事なところであると思う。押し付けているわけではなく、幸せになることや、希望を実現していくことが重要である。あくまでも個人の意思を尊重しつつ、社会を維持していくという命題に応えていかなくてはならない。
3	結婚･出産･子育て	保育所や幼稚園での子どもの発熱時におけるオンライン診療、働く保護者の活動をSNSで発信する取組、障害のある子どもを育てる保護者のネットワーク、産後の精神面を支える保護者ネットワークといった取組に高いニーズがあると感じている。
4	教育	子どもたちが地元の学校へ行きたいと思える学校をどのように作っていくかが目指す方向ではないかと思う。 すべての子供が学校へ行きたいと思える教育環境を整えることが大切である。
5	教育	課題解決には、主体的に取り組む力だけでなく、失敗しても粘り強く取り組む力や、仲間と協調する力も必要である。
6	教育	学校へ行きづらいと感じる子どもへの支援には、保護者への働きかけも非常に重要であると思う。スマートフォンやSNSをやめることによって、子どもたちが学校に気持ちを向ける環境を作ることができ、不登校が改善するという話もある。 情報リテラシーが非常に重要になっている。これは学校教育の問題だけではなく、保護者や地域の大人、企業も含めた問題である。

【人材・暮らし部会】

No.	分野	ご意見
7	教育	若者の精神的な不調や自死が増えていることについては、SNSの悪影響が出ているという話も聞いており、自分もそのように感じる。 一方で、利用を禁止すれば良いということでもない。悪影響を認識しつつ、これからの情報化社会では共生していくことが必要である。子ども達に対して、悪影響のあるものは抑えつつ、必要な教育をしっかり行うことが重要であると思う。
8	教育	生成AIの利用が社会や大学教育で一般化し、子どもも容易に利用できる状況にある。義務教育段階でAIをどのように位置付けるかが重要である。
9	教育	部活動の地域展開については、受け皿となるクラブチーム等の運営者やコーチ、指導者に対して、教育者としてあるべき姿や心構えなどを学ぶプログラムを用意してもらえると良いと思う。円滑な地域展開を進めるために、指導者教育的な観点が必要である。
10	健康・福祉・医療	企業では健康経営が進み、健康保険組合が被扶養者を含めた健康づくりを担っている。定期健康診断、スポーツ、民間フィットネス等を組み合わせ、行政、企業、健康保険組合及びスポーツ関係団体が連携して健康増進を進めてほしい。
11	健康・福祉・医療	困っている人の相談については、相談する環境を整えればすべての相談者の問題が解決するものではない。まず、相談しようというエネルギーが本人にあるかどうかである。困ったときに相談できる、相談したいという気持ちをどう育てるかが重要であると思う。
12	健康・福祉・医療	健康・福祉・医療の基本的な部分で、寄り添うだけではなく、困ったときに助けてくれるひとがいることや、困ったときに自分から助けを求められない人に対してどのようにするのかという点は、昨年度から話題になっている点である。

【人材・暮らし部会】

No.	分野	ご意見
13	スポーツ	「峰高くして、裾広し。裾広くして、峰高し」という言葉がある。トップ選手に憧れて競技人口が増え、競技人口が増えることで競技力が向上する。健康寿命という観点からも、スポーツの裾野を広げることが重要であると思う。
14	スポーツ	親子が運動に親しむ環境があることによって、一定程度運動に対する力が育ち、喜びを分かち合える場にもなると思う。初心者の親子でも楽しめるスポーツの機会を進めてほしい。
15	スポーツ	「スポーツを中心にしたまちづくり」について、プロスポーツチームを支えることなどにより、まちづくり、にぎわいづくり、観光、公共交通の利用促進など様々な分野に関わってくる。地域の誇り、シビックプライドということにもつながっていくと思う。
16	スポーツ	女性のスポーツ実施率が低下していることや、地域のプロスポーツを観戦したいと思わない人が一定数いることも課題として示されている。プロスポーツチームと連携した機運醸成など、提示された取組を着実に推進してほしい。

【都市・環境部会】

No.	分野	ご意見
1	都市・交通	中心市街地への居住誘導と郊外部の住宅立地、空き家の増加、公共交通の圏域との関係を踏まえ、地域ごとの将来像を明確にする必要がある。
2	都市・交通	人を継続的に呼び込む機能や地域固有の魅力を明確にし、土地利用の在り方も検討する必要がある。
3	都市・交通	コンパクトシティはまだ道半ばであり、完成したものではないと認識している。持続可能な水準まで都市のかたちが落ち着いた状態が、コンパクトシティの完成形であると考えるが、現状はまだそこに到達していないため、引き続き新たな政策を進める必要がある。
4	都市・交通	公共交通を十分に活用するには、既存の交通資源を最大限に活用する観点から、民間事業者等とも連携し、様々な方策を検討する必要がある。
5	都市・交通	交通分野においては、交通事業者や沿線自治体との連携を重視する必要がある。
6	都市・交通	自家用車を完全に減らすことは難しいとしても、できる限り自動車を利用せず、走行距離を短くする考え方が重要である。

【都市・環境部会】

No.	分野	ご意見
7	都市・交通	公共交通を使いやすくするため、交通事業者は相当な努力をしていると認識している。しかし、一事業者の努力だけでは対応が難しい段階にきていると考える。
8	都市・交通	運行形態に関して、各交通事業者が個別に検討するだけでは、利用者にとって利便性の高い交通体系にはならないと考える。各運行形態を組み合わせ、全体を設計・調整することが市として必要な役割である。
9	都市・交通	富山市が管理する社会インフラを今後も同じ規模で維持管理していくことは困難になると考えられる。道路や橋梁等について、修繕だけではなく、将来的には廃止も検討せざるを得ない場面が生じる可能性がある。 市民との合意形成についても、これまで以上に丁寧に行う必要がある。
10	都市・交通	インフラについては、必要に応じて集約・再編する旨を記載すべきである。トンネルや橋梁等も更新時期を迎えるため、上位計画に将来を見据えた表現を盛り込むことが重要である。
11	都市・交通	社会インフラについては、人口や世帯数が減少していく中では、既存インフラを賢く維持管理していく方向性が重要になる。
12	防災・防犯	民間施設を避難場所として活用することや、ホテル等を含めた受け入れ体制、備蓄の確保などについて、平時から連絡体制や協力体制を整えておくことが望ましい。

【都市・環境部会】

No.	分野	ご意見
13	防災・防犯	富山市では太平洋側の都市と比べて、防災意識が必ずしも高いとはいえないのではと考えている。毎年同じような訓練内容にとどまるのではなく、市民の防災意識を高めることにつながる訓練となるよう工夫していただきたい。
14	防災・防犯	県単位の協定があれば、近隣市町村が被災した場合にも、広域連携による支援が進めやすくなると考える。現在の広域連携について、今後もその取組を一層進めていただきたい。
15	防災・防犯	これまでの災害への支援経験や教訓を富山市の防災に生かし、災害に強いまちづくりを進める必要がある。
16	防災・防犯	災害発生時の復旧には、地域の建設業者の存在が不可欠である。民間事業者との連携について、平時から協力体制を確保する必要がある。
17	防災・防犯	災害に強いだけではなく、早期に回復できるまちづくり、レジリエンスの向上も重要である。 被災後も都市機能を維持し、暮らしを早期に回復する回復力・適応力まで含めた考え方を盛り込む必要がある。
18	環境	ゼロカーボンの推進について、供給側の取組と需要側の取組があるが、供給側から脱炭素を進めることは、自治体だけでは対応が難しい面がある。富山市が推進する取組としては、需要側の対策をより重視することが望ましい。ZEH化や中小企業のGX化など、省エネルギーに関する取組を重点的に進めることが効果的であると考える。

【都市・環境部会】

No.	分野	ご意見
19	環境	次世代を担う子どもたちが、地域の再生可能エネルギーや循環型社会に関する取組を学び、自ら考えることができる仕組みを育てていくことが望ましい。
20	環境	廃棄物処理の有料化だけでなく、不要品を市民が再利用できる仕組みや、災害廃棄物を産業資源として活用する仕組みなど、リサイクルを一層進める必要がある。
21	環境	脱炭素化にあたっては、市民の移動の利便性を損なわないよう、公共交通との連携を図りながら、自動車利用を減らしていく方向性を検討する必要がある。
22	環境	再生可能エネルギーの導入に関連して、太陽光発電パネルのリサイクルも重要な課題である。太陽光発電設備は一定の耐用年数があるため、今後処分やリサイクルについて検討する必要がある。
23	環境	地震等の災害が発生した際には、太陽光パネルが災害廃棄物として処理上の問題になると聞いている。災害が発生した場合の処理やリサイクルについても、国の方針を踏まえながら検討する必要がある。
24	環境	ごみの有料化だけでなく、不要品を市民が再利用できる仕組みや、災害廃棄物を産業資源として活用する仕組みなど、リサイクルを一層進める必要がある。

【活力・交流部会】

No.	分野	ご意見
1	産業・雇用	産業・雇用においては、企業誘致やマッチング機会の創出だけでなく、市内企業における働きやすい環境づくりや魅力向上についても重視する必要があると考える。
2	産業・雇用	企業の職場環境改善やキャリア形成を支援する施策が必要と考える。
3	産業・雇用	女性活躍について、富山県では女性の労働力率を表すM字カーブが小さくなっているものの、依然として女性が正規雇用として働き続けることが難しい状況が残っていると認識している。
4	産業・雇用	子育て世代の女性の中には「今さら社会に出られない」といった不安や消極的な意見もみられる。社会参加に向けた段階的な支援や丁寧な働きかけが重要である。
5	産業・雇用	高校生の就職活動では、応募先を一社に絞り、短期間で進路を決定する場合がある。大学生だけでなく高校生を対象とした企業理解やキャリア教育を充実させる必要がある。高校生が十分な情報を得て、幅広い選択肢から進路を検討する機会を設ける必要がある。
6	産業・雇用	大学においても、地域社会に必要とされる人材を育成し、その成果を社会に還元することが重要である。市が地域で必要とされる人材の需要を把握し、教育機関と協力して人材を育成するとともに、地元就職につなげる取組が必要である。
7	産業・雇用	高校生が地元企業について学ぶ機会は少なく、富山に残ることや地元で働くことを具体的に考える機会が十分ではない。地元企業を知り、就職を選択肢として考える機会を充実させる必要がある。
8	産業・雇用	普通科高校では進学を主眼とした教育が中心となり、進学後に富山市内で働くことを意識する機会が少ない。進学前から市内就職を選択肢として考えられる情報や機会を提供する必要がある。

【活力・交流部会】

No.	分野	ご意見
9	観光・交流	観光地を周遊するためのバスや電車などの交通手段が十分ではないと感じている。観光客を呼び込むのであれば、富山駅、各鉄道駅、空港から観光地までの動線を整え、公共交通の利用についてわかりやすく案内する必要がある。
10	観光・交流	観光のモデルプランを作成し、周知してはどうか。その際には、県や他の市町村と連携し、広域的な観光ルートとして構成することが望ましい。
11	観光・交流	観光は富山市内だけで完結するものではなく、他の市町村との連携が必要である。多様な観光プランを選択できる仕組みを整えることで、広域周遊の促進につながると考える。
12	観光・交流	「富山やくぜん」は、認定店舗があるものの、市民の間で十分に話題となっていない。活性化とPRを強化する必要がある。
13	観光・交流	富山市ガラス美術館は来館者が多く、内容も優れている。市内にはガラス制作を体験できるガラス工房もあり、両施設間の交通手段を確保し、周遊できるようにしてはどうか。
14	観光・交流	市内には魅力的な場所や地域の歴史・文化を伝えられる人材がいるため、そういった人と気軽に交流できる機会が増える取組も必要ではないか。
15	農林水産	米や農産物の価格、生産者の経営状況を踏まえる必要がある。生産者である農業者が経営を継続できなければ、農業そのものが成り立たない。生産者を取り巻く状況について広く市民の理解を促し、認識を共有しながら、農業経営の維持につながる施策を継続して推進していただきたい。
16	農林水産	担い手不足と高齢化も進み、将来、誰が農地を維持するのか強い危機感がある。消費者にも生産現場の実情を理解してもらい、生産者が持続可能な価格で販売できる環境を整える必要がある。

【活力・交流部会】

No.	分野	ご意見
17	農林水産	市町村合併した地域の約７割が山林である。熊対策のためにも、里山を整備し、住宅地と山林との境界を明るくすることが重要である。
18	農林水産	漁港周辺で民間活力を導入し、食や観光と連携する取組も考えられる。水産業の持続には、市民の意見を聞き、情報を発信し、理解と消費につなげることが重要である。
19	農林水産	農産物は、健康価値や品質を適切に伝え、販路を工夫することで、より高い付加価値を生み出せる可能性がある。食料安全保障の観点も踏まえ、生産者が持続的に収益を確保できる仕組みを検討する必要がある。
20	文化・芸術	質の高い文化・芸術は、観光・まちづくり・産業等、様々な主体や分野が関わりながら「共創」することが重要である。
21	文化・芸術	文化芸術による交流を促進するには、街並み、飲食、自然、産業等と一体的に取り組む必要がある。市が直接事業を行う方法と、民間の取組を支援する方法の双方が考えられるため、関連情報を分かりやすく発信してほしい。
22	文化・芸術	芸術、観光、産業、農業等を個別に考えるのではなく、分野横断で連携して取り組む必要がある。
23	文化・芸術	地域の文化行事は、担い手や資金の減少により継続が難しくなるおそれがある。クラウドファンディング等も活用し、市内外の支援者を増やしながら、継続的に運営できる仕組みが必要である。
24	文化・芸術	地域文化を将来につなぐには、子どもの頃から身近に触れる機会を設けることが重要である。

【協働・連携部会】

No.	分野	ご意見
1	地域コミュニティ	一般的な地域コミュニティの活動は女性が出てくる印象がある。男性もどんどん活動に出ていくような方向性を取らなければならない。
2	地域コミュニティ	近年は70歳を超えても企業で働く人が増えており、退職された後の地域活動への参加については、体力や気力の関係から、ゆっくり過ごしたいと考えられる方もおられると思う。そのあたりも考慮し、地域活動と日常生活のバランスを取ることが必要ではないか。
3	地域コミュニティ	地域の担い手の育成については、防災の観点でも重要だと思う。将来に地域を担う子供たちを対象とした活動を充実させるべきである。例えば子供たちが公民館で活動することなどが記憶に残れば、将来地域と一緒に頑張ろうという気運醸成にもつながると思う。
4	地域コミュニティ	災害はいつ発生するか分からないため、平常時から顔の見える関係を作り、助け合える体制を整えておく必要がある。例えば、地域に寝たきりの方や車いす利用者がいるのか、だれが支援できるのかといったことを、日常的に話し合うことが重要である。
5	地域コミュニティ	地域コミュニティや地域連携を支える基盤として、ICTは重要である。
6	地域コミュニティ	町内会の世帯数や会費収入によって導入可能性に差が生じ、小規模な集落が取り残される懸念がある。地域の規模や財政力にかかわらず、誰もが同様に制度を利用できるよう配慮する必要がある。
7	郷土愛	ふるさと教育の推進に関して、地域の歴史や文化への学びだけではなく、人とのつながりや地域の様々な資源の学びも重要である。歴史や文化の背景にある人々の生活も重要であるので、そういったことも学んでほしいと思う。
8	郷土愛	シティプロモーションの推進について、特に若い世代がターゲットであることが強調されているが、実は高齢者が幸せに暮らしている地域に魅力を感じる人も多いのではないか。富山でのゆとりある暮らし方を広げていくと、それを見た若者が、富山ではゆとりある暮らしができるのではと考えると思う。

【協働・連携部会】

No.	分野	ご意見
9	郷土愛	幸せなまちを作れば移住の人も増加し、住んでいる人も幸せを感じ、引き続き定住してくれるのではないか。移住定住が目的ではなく、幸せなまちが作られたという目的が達成された効果として、移住定住があるのではないかと思う。
10	郷土愛	観光も集客も成功している県外の地域における要因の一つとして、県を超えた連携を進めていることが挙げられる。県内はもちろん、近隣の県との協力も今後必要である。
11	行政・パートナーシップ	アンケート調査や市民意識調査の結果を指標とする場合、設問の聞き方や定義を明確にしなければ、評価が正確にできない恐れがある。回答しやすい設問と用語を検討していただきたい。
12	行政・パートナーシップ	市民や関係機関との連携については、本市における計画の策定段階から色々な主体に入ってもらい、進めていく必要がある。
13	行政・パートナーシップ	進学先の地域でそのまま就職する若者も増えていくと思う。富山県内の高等教育機関との連携を重視し、進める必要がある。
14	行政・パートナーシップ	市民がまちづくりに参画することは非常に重要である。自分たちがまちづくりに関わっているという実感を持つことは、地域への愛着や幸福感にもつながる。
15	行政・パートナーシップ	行政ニーズに対応できる人材の育成・確保について、どの職場も人員が不足しており、人材確保に苦慮している状況である。積極的に人材確保・省人化に取り組むべきである。